

その毒、最強…なのに敗北!?

地球上にいるさまざまな生き物たち。その「いとおしくておもしろい」生きざまを、ちょっとのぞいてみよう。今回は、こわ〜い毒と、それに負けない動物の話です。



きれいな花には毒がある!?

夏から秋にかけて花が咲く植物はいろいろあるよね。こちらのきれいな紫色の花もその一つだけれど、実は美しさとは別の理由でとても有名。その理由とは?

「何を隠そう、猛毒なのだ!」

名前を知っている人も多いだろう、これは「トリカブト」。日本には30種ほどが確認されていて、花や葉、根など全体に毒がある。自分の身を守るため、動物に食べられるのを防ぐその毒は、植物のなかで最強といわれているんだ。

トリカブトは花もすごい。種子をつくる「受粉」を確実に行うため、工夫がこらされているのだ。手伝ってくれるのはマルハナバチ。ハチが見つけやすい鮮やかな紫色にひかれてやってくると、いちばん下の二枚の「がく」が足場となる。その上のがく二枚がつくる、花の奥へと続く道をのぞき、いちばん上のがくに頭を突っ込むと、奥にある花びらの中に蜜が見つかる。マルハナバチがお目当ての蜜を探し出すところには、自然と花粉がからだにつく。そして次に訪れた花で、めしべに受粉させるといふ寸法だ。

トリカブトの花にやってきたマルハナバチ



この奥に蜜がある

蜜までのせまい道をつくる。道のとちゅうにめしべとおしべがある

あしは足場

めだ目立つ紫色の部分は、花びらではなく、がくなんだ。

やせ我慢？

いや、やせ細らないために、我慢。

ところが、この最強の毒でも勝てない相手が出てきた。場所によっては、絶滅まで心配されているという。その相手は、なんとニホンジカ。

しかし、ニホンジカも普通はトリカブトなんて食べないはず。どうしてわざわざ猛毒の植物まで食べるようになったのだろうか？



「それはまあ、
ご飯が足りないから…」

実は近年、ニホンジカがかなり増えているという。過去10万年をさかのぼっても、今がいちばんか、それと同じくらいの規模だと推測する研究があるくらいだ。

そんな状況なので、ニホンジカが多いところでは餌が足りなくなる。それまで食べてこなかった植物…たとえばトリカブトまで口にしなければいけなくなったんだ。

しかしさすがはトリカブト、食べたシカはお腹を壊して下痢になってしまうんだって。生き抜くためとはいえ、なかなかつらそう…。

ニホンジカが増えた理由はいろいろだ。人が駆除したことや病気などが原因で、天敵のニホンオオカミが絶滅したことに加え、狩りをする人間が減ったことも大きい。ほかに、人が使うのをやめた畑に草木が生い茂って、シカにとってすみやすくなったこともある。…おや、つまり原因はわたしたち…？